

哲學研究

第四十二卷 第七册

第四百八十九號

昭和三十九年四月一日發行

田邊元博士追悼號

有についてのカントのテーゼ……………マルチン・ハイデッガー
辻村公一譯

田邊哲學について……………西谷啓治

田邊哲學に於ける數理哲學の地位
について……………下村寅太郎

——「數理の歴史主義展開」を中心として——

行爲と辯證法……………野田又夫

田邊先生の死の哲學……………武藤一雄

辯證法と時……………辻村公一

田邊先生の思い出……………相原信作・天野貞祐・石澤要・石田仁・

植田壽藏・上田泰治・澤瀉久敬・北森嘉藏・

高坂正顯・高山岩男・高橋稜・土井虎賀壽・

野上彌生子

京都大學文學部内
京都哲學會

史學研究会

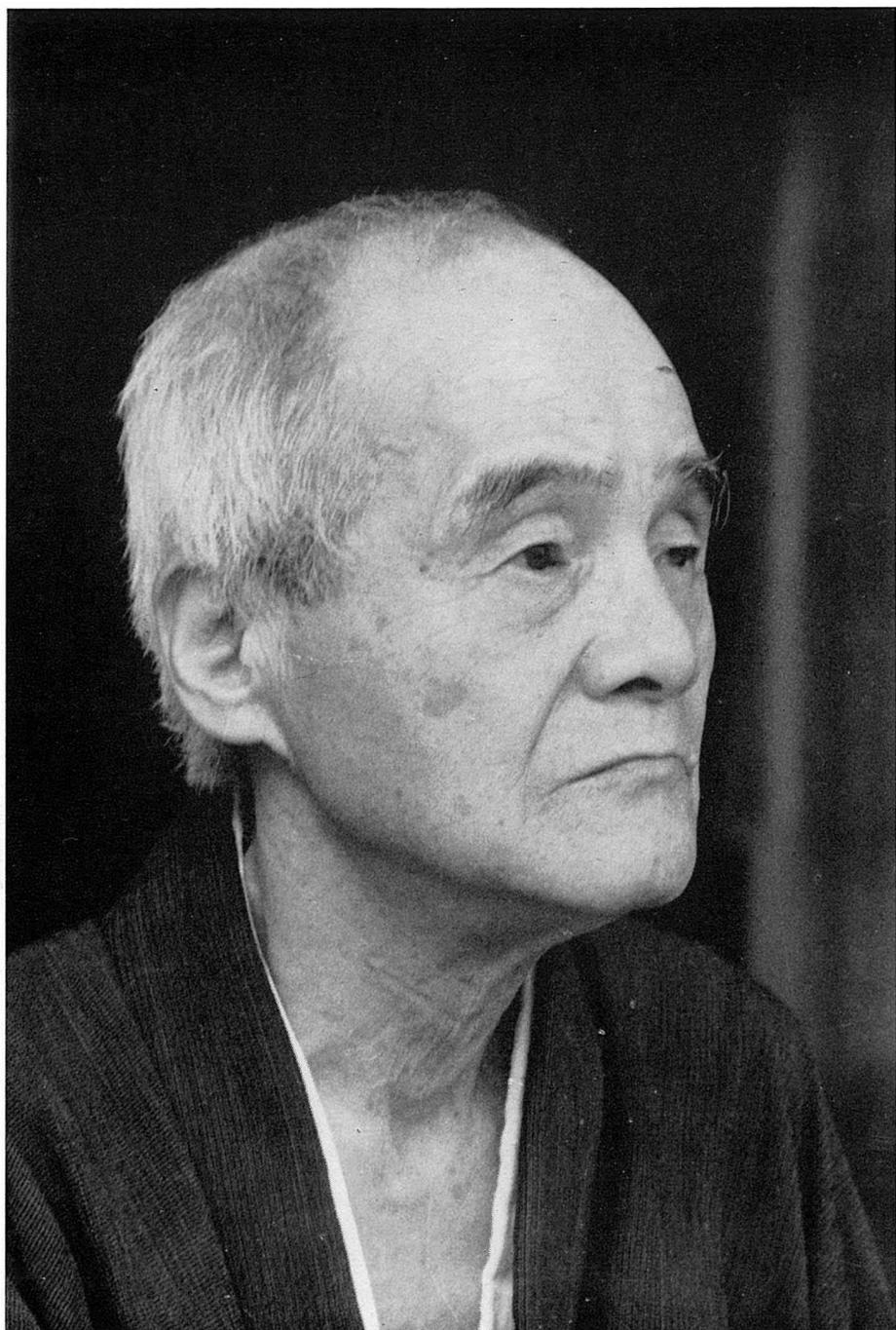
京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく
賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない
學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年一、五〇〇圓（會誌十二冊分を含む）を前納する
但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

湯本	武水	松藤	服蓮	野長	常辻	棚田	武高	園島	重梶	柿上	井石	池田
淺吉	藤垣	尾澤	部實	田尾	俊村	瀬美	中内	田原	澤山	崎野	島田	田義
幸良	一義	令正	重又	雅三	公襄	知太	義三	太芳	俊雄	祐照	一夫	義仁
孫治	雄涉	海夫	明康	夫人	一郎	爾郎	範郎	郎夫	郎一	一夫	勉仁	祐



前	号	目	次
		聴覚の論理……………	植田寿蔵
		教育的認識の構造……………	源了円
		ナシヨナリズムの類型……………	高島昌二
		外部知覚について……………	岡田正次

次号論文予告	
価値の経験論的解釈と超越論的解釈……………	島 芳夫
苦しみの場所……………	森口美都男
——その三——	
カントの弁証論……………	高橋昭二

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會(振替口座京都四〇三九番 京都哲學會)宛に規定の會費(年一、五〇〇圓又は半年七五〇圓)をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社(振替口座東京九二四七二番 創文社)宛に願います
一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに京都哲學會宛御拂込下さい(一年分又は半年分)、會費は原則として本誌十二冊(又は六冊)の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年(又は半年)毎に精算します

一、會員の轉居・入退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい
一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十九年三月三十日印刷
昭和三十九年四月一日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内
編 集 代 表

常 俊 宗 三 郎

發 行 人 久 保 井 理 津 男

印 刷 人 東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

堀 内 文 治 郎

堀 内 印 刷 所

東 京 都 神 田 三 崎 町 二 一 六

發 行 所 株 式 會 社 創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二
振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番
電 話 九 〇 〇 〇 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい
一、本誌の御註文はすべて代金送料共(一部、定價一五〇圓、送料・四〇圓)前金にてお送り下さい

昭和三十三年三月三十日印刷
昭和三十三年四月一日發行
（每月一回）

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLII

April, 1964

No. 7

Dedicated to the Memory of

Dr. Hajime Tanabe

Kants These über das SeinMartin Heidegger

Zur Philosophie H. TanabesKeizi Nishitani

The Place of the Philosophy of Mathematics in

Dr. Tanabe's SystemToratarô Shimomura

Dialectics and PraxisMatao Noda

Über die Philosophie des Todes bei Hajime TanabeKazuo Mutô

Dialektik und Zeit.....Kôichi Tsujimura

Dr. Hajime Tanabe (1885~1962)

Reminiscences by S. Aihara, T. Amano, K. Ishizawa, S. Ishida,
T. Ueda, Y. Ueda, H. Omodaka, K. Kitamori, M. Kô-
saka, I. Kôyama, Y. Takahashi, T. Doi, Y. Nogami.

Published Monthly

by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

特價
二五〇圓

IBM 6427